

### 第3章 地域活動モデルの事例調査

#### 【サマリー】

- 本年度、交付金申請を行っている活動団体 10 組織にヒアリングを行い、事例調査を行った。
- 各活動団体の参考となる事例を、活動組織や活動タイプ等に偏りがないよう抽出し、交付金活用の普及啓発や理解促進に資することを目的として実施した。
- 調査分析を行うにあたり、活動内容としては「地域の課題解決」「新たな生業やビジネスの創出」「コミュニティの活性化」「新たな人材確保や人材育成」に資する活動かどうか。活動体制としては「多様な主体との連携」、「活動の継続や発展の基盤」、「独自の工夫」があるかどうか。また、活動普及の観点から「より広範な理解醸成や機運の盛り上がり」、「外部評価」、「活動のストーリー性」の有無に留意した。
- 結果、「地域環境保全タイプ」としては、森林組合、林業研究グループ、地域おこし協力隊等が主体となった事例や、地域住民と森林組合、農協、NPOなど多様な主体の連携によるものを抽出。竹林やクヌギ林等の整備保全の他、獣害対策を実施する 6 団体の調査分析を行った。
- 「森林資源利用タイプ」としては、バイオマス利用の他、クロモジ(薬草)の採取、ウラジロ(正月飾り用)の採取を目的とした活動を抽出し、3団体の調査分析を行った。
- 「森林空間利用タイプ」としては、学校林の活用に取り組む小学校の 1 事例を抽出し、調査分析を行った。

## 1. 事例分析の視点

### 1-1 調査の目的

森林・山村多面的機能発揮対策（以下、「対策事業」）の推進を検討するために、本年度、「対策事業」に交付金申請を行っている活動団体にヒアリングを行い、その取組を分析する。

各活動団体が抱える課題への対応を考える上で参考となる事例を、活動組織や活動タイプ等に偏りがないよう抽出し、分析するとともに、対策事業の普及啓発や理解促進に資するものとする。

### 1-2 事例抽出の視点

#### (1) 活動組織

活動組織は、住民組織を中心とした「地域内」の団体と、NPOや企業など「地域外」の団体に大きく分けることができる。

対策事業の内容に合致する団体として、森林関連団体（＝「森林所有者」「森林組合」「生産森林組合」「林業研究グループ」「環境関連団体（NPO）」）が重要なファクターを占めるが、それ以外にも「公共団体」「教育機関」「企業」など、さまざまな団体が相互に連携した取組みも抽出する。

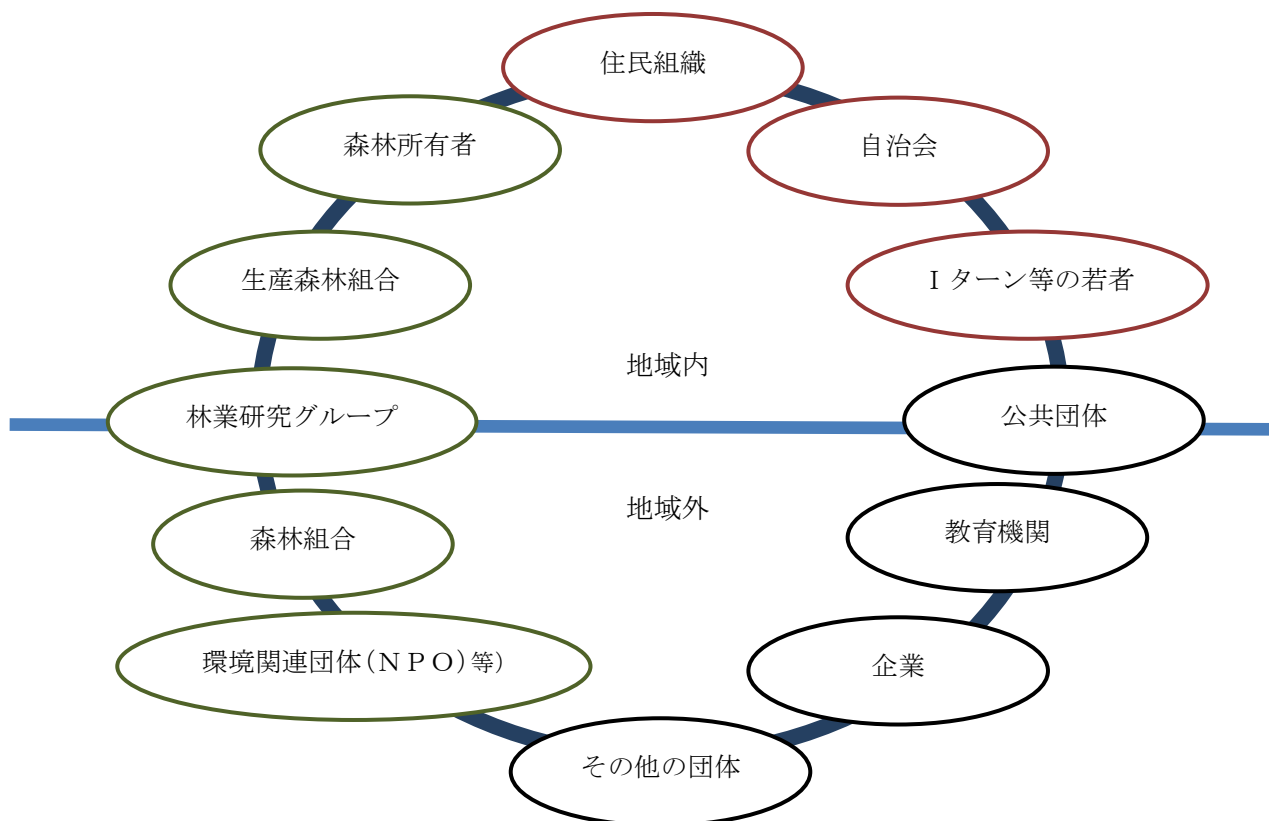


図 3-1-1 地域活動団体を取り巻く多様な主体

## (2)活動タイプ

対策事業は、「地域環境保全タイプ」「森林資源利用タイプ」「森林空間利用タイプ」の3つに大別される。「地域環境保全タイプ」は、その植生に応じて「里山林」と「竹林」に分けられるが、活動の目的に応じて、さらに細かく分類される。「森林資源利用タイプ」は、「木材利用」「竹利用」「特用林産物」の3つに分けられる。また、「森林空間利用タイプ」も、その目的に応じて、細かく分類される。これらの活動タイプに偏りがないよう、事例を抽出する。

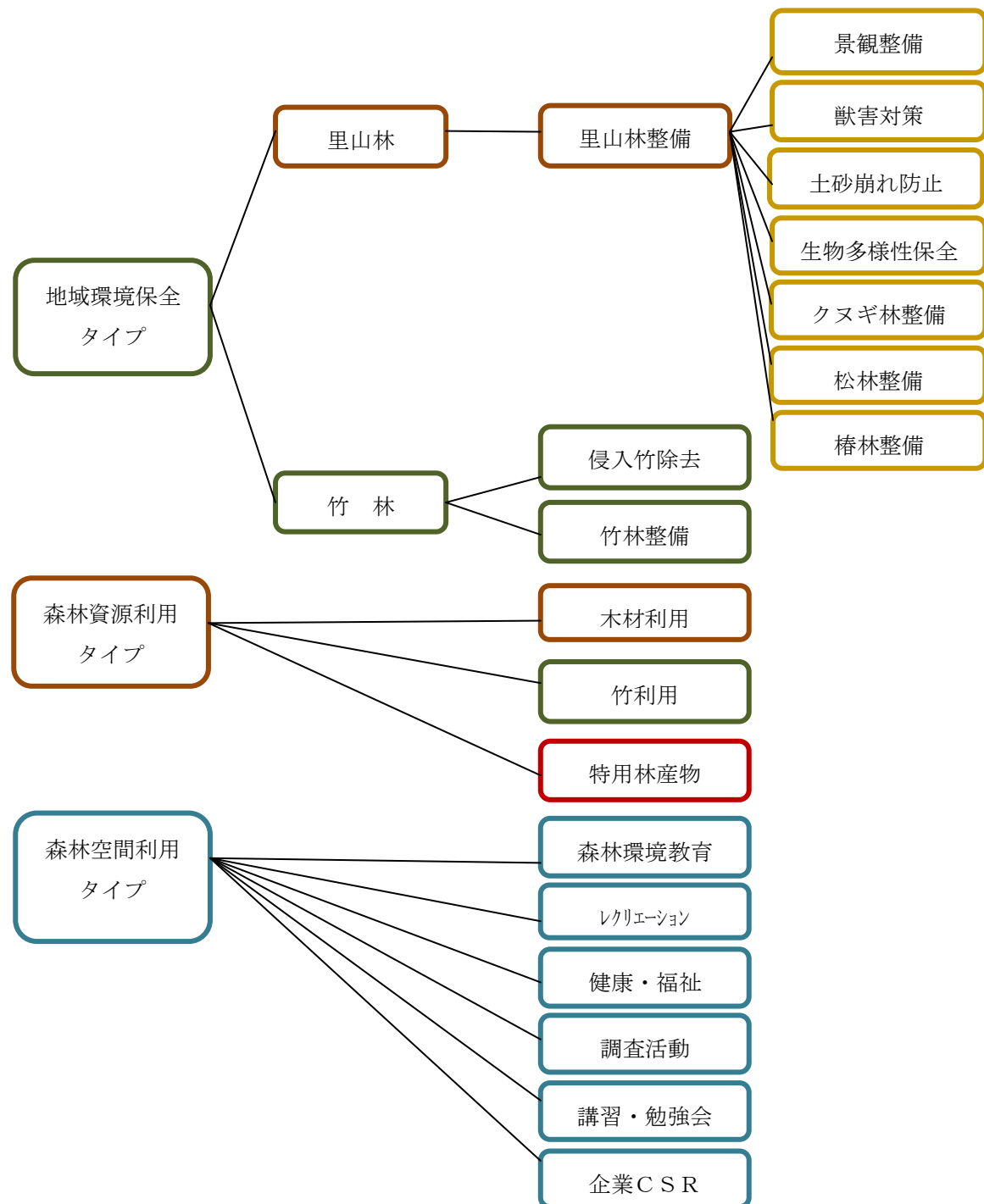


図 3-1-2 活動タイプの類型

### 1-3 必要な施策(課題)とこれに向けた分析の視点

事例調査は、10 組織を選定し、ヒアリングにより実施する。ヒアリングにあたっては、活動地を訪問し、聞き取りを行うが、今後必要な施策(課題)と照らし合わせて、特に以下の点に留意しながら事例を分析し、まとめる。

#### (1)ヒアリング項目

##### ①対象となる里山林

- ・地域の概況(地域の課題や特色等)
- ・里山林の概況(里山林の植生、地理的特性、所有・管理状況等)
- ・周辺の農地や林地の状況(里山林の荒廃や耕作放棄地、獣害の有無等)

##### ②活動内容

- ・活動目的と経緯(何を目的に、どのように活動がはじまったか)
- ・活動概要(活動の特色や工夫、多様な主体との連携の有無等)
- ・活動組織(活動の主たる構成員、特色等)
- ・合意形成の手法(森林所有者や地域住民等との合意形成はどのように行われたか)
- ・活動の将来性と今後の課題(新たな生業やビジネスの創出、人材育成の有無等)
- ・外部評価の有無(メディアへの掲載や表彰の有無等)
- ・その他(アンケート調査の記述に則して補完すべき内容等)

#### (2)特に留意する分析の視点

##### ①活動目的から見た課題

- ・活動を通して、里山林の保全管理が適切かつ効果的に実施されており、里山林の荒廃や獣害防止対策等、地域の課題解決につながっているか。
- ・里山林の資源活用により一定の収入が得られる等、新たな生業やビジネス創出につながっているか。
- ・地域内外から里山林を訪れる人が増える等、地域コミュニティの活性化につながっているか。
- ・里山林の保全管理や資源活用のための新たな人材確保や人材育成につながっているか。

##### ②活動体制から見た課題

- ・地域住民や森林所有者、NPO法人、民間団体等、多様な主体との連携により、より着実に効果的な実施体制が確立しているか。
- ・同交付金による活動支援が終了した後も活動を継続する意思があり、より発展できる基盤があるか。
- ・活動内容や実施体制に独自の工夫があり、他地域の住民等がそれを模範としながら取り組むことができるか。

##### ③活動普及の観点から見た課題

- ・里山林に対する価値観の変化やより広範な理解醸成につながり、新たな保全管理や活用に向けた機運が高まっているか。
- ・活動が表彰を受ける、新聞・雑誌等のメディアに取り上げられる等、外部評価を得られているか。
- ・活動にストーリー性があり、地域住民や森林所有者等の共感を得られるか。

## 2. 事例調査結果

### 2-1 事例調査の実施地域と活動組織

事例調査は、活動組織や活動タイプ、地域バランス等を考慮し、以下、10 組織に対してヒアリングを行った。

#### (1) 地域環境保全タイプ

- ①内子町森林組合(愛媛県内子町)
- ②上山集楽林業部(岡山県美作市)
- ③北九州市林業研究グループ(福岡県北九州市)
- ④熊本市河内地区里山再生協議会(熊本県熊本市)
- ⑤みやま市景観まもり隊(福岡県みやま市)
- ⑥九十九島の松をまもる会(秋田県にかほ市)

#### (2) 森林資源利用タイプ

- ①間伐材運び隊(岩手県紫波町)
- ②樵舎(たきぎのかい)(富山県南砺市)
- ③能登島自然の里ながさき(石川県七尾市)

#### (3) 森林空間利用タイプ

- ①札幌市立駒岡小学校 緑の少年団(北海道札幌市)



図 3-2-1 対象事例の位置

## 2-1 調査結果

### (1) 地域環境保全タイプ

#### ①森林組合が里山再生をリードする ―内子町森林組合(愛媛県内子町)―

##### 1) 団体概要

昭和 45 年に設立した内子町森林組合は、組合員数 3200 名余り。旧内子町、五十崎町、小田町の森林管理を行っている。同町の森林は、拡大造林以前は広葉樹林が多く、現在も民有林のうち8パーセント、約 1500 ヘクタールがクヌギ林である。

##### 2) 活動内容

クヌギ林は主にシイタケ原木として活用してきたが、住民の高齢化と価格低迷により手入れが行き届かない。そこで組合自ら森林所有者の合意形成を図り、整備を支援することとした。蔓が絡み雑木が繁茂する荒廃林は夏に整備を行い、秋から冬にかけて伐採搬出を行う。大径木化したクヌギの伐採搬出には重機も必要であり、3人1組の体制で作用を行っている。

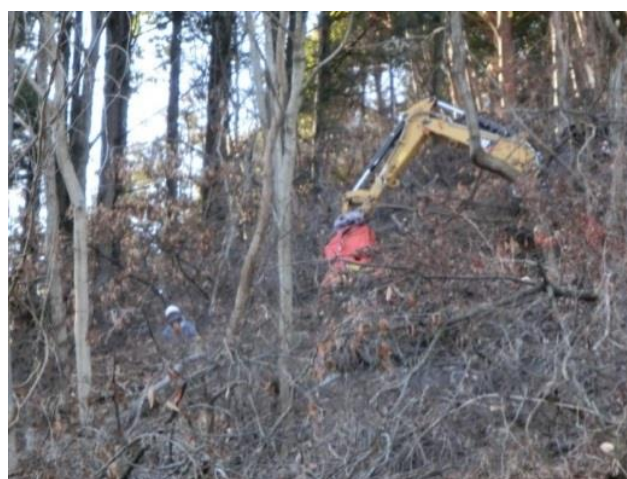


##### 3) 交付金活用のポイント

組合では、経営計画策定の際の現場確認作業とあわせて、整備対象作業地をみつけている。地域単位で面積をまとめ、作業を請け負うことができれば、組合の新規事業に発展できると考えている。伐採したクヌギはほだ木として出荷する他、県外チップ業者に原木のまま出荷している。



地域の森林



クヌギ林の整備作業



## ②地域おこし協力隊が山村の未来を担う ―上山集楽林業部(岡山県美作市)―

### 1) 団体概要

美作市では総務省の地域おこし協力隊制度を活用し、中山間地域の複数の集落に若者を受け入れている。そのひとつ上山地区では隊員らが都市住民グループとともに棚田の再生活動に取り組んでいる。その活動で得た住民との信頼関係をもとに里山整備に取り組む。

### 2) 活動内容

地域おこし協力隊員と同市にIターンした元協力隊員を中心に、竹林及び広葉樹林の里山整備を行っている。60代を中心とした地区住民も週に2日、活動に参加。広葉樹は薪にして出荷するほか、炭に焼いて自家消費する予定。シイタケ原木としても活用したいと考えている。



### 3) 交付金活用のポイント

過疎高齢化が進む中山間地域では、里山整備の担う人材が不足しているが、同市では地域おこし協力隊員が、その担い手となっている。森林所有者の合意形成も隊員が率先して行い、本年度は6ヘクタールの活動計画を申請。次年度はさらに範囲を広げる予定である。若者たちに刺激され、地区住民も整備活動に参加するという好循環が生まれている。



上山集落の景観



竹林整備の状況

### ③竹林を整備し地域の課題を解決 ―北九州市林業研究グループ(福岡県北九州市)―

#### 1) 団体概要

北九州市林業研究グループのうち会長以下3名は、北九州市合馬地区の住民であり、森林所有者である。同地区は、高級タケノコの産地として有名だが、近年、竹林が周辺の里山に拡大し、放置竹林の整備が課題となっている。そこで林研グループが主体となり、活動申請を行った。

#### 2) 活動内容

侵入竹の除伐と放置竹林の整備に取り組む。一般的に放置竹林は反当たり 600～1000 本の竹が密集しており、それをタケノコ園として整備するには、反あたり 250 本に減らす必要がある。しかし今回は、枯れ竹・倒伏竹を片付け、人が林内を歩ける程度まで減らすことを目標に、竹林整備のモデル林をつくりたいと考えている。作業はタケノコ出荷の繁忙期を除き、12～2月に行う。



#### 3) 交付金活用のポイント

同グループでは、竹林整備のモデル林をつくることにより森林所有者の理解を広げ、地区全体で放置竹林の整備に取り組む機運を盛り上げたいと考えている。また、伐採した竹の一部は、北九州市森林組合の竹材加工センターに搬入し、竹チップや竹炭等として有効活用する。



合馬地区の景観



放置竹林の状況



#### ④獣害対策の一環としての里山整備 ー熊本市河内地区里山再生協議会(熊本県熊本市)ー

##### 1)団体概要

熊本市西区河内地区は、約 20 年前に森林組合が解散したことから、森林が管理されず放置され、竹林の荒廃も進んでいる。放置竹林はイノシシの餌場となり、農作物への被害も増えている。そこで、熊本県森林組合連合会、熊本市農業協同組合等が地域住民とともに活動組織を設立。果樹園や道路に接する森林に緩衝帯を設け、イノシシ被害の対策や里山整備に取り組むことになった。



##### 2)活動内容

果樹園と森林の間を隔てる道路は、小中学校の通学路でもあり、イノシシによる人的被害も懸念されることから、道路沿いの整備は緊急性が高いと判断した。道路に沿った民有地の所有者の合意をとりつけて、緩衝帯を整備。あわせて荒廃竹林等の里山整備を行っている。

##### 3)交付金活用のポイント

熊本県森林組合連合会では、森林境界明確化事業に取り組む傍ら、同地区住民の合意形成を図ってきた。里山整備には住民のほか、森林組合の作業班やシルバー人材センターの会員等も参加。今後は地域の小学生を対象とした森林体験学習も実施する予定である。



通学路沿いの整備状況



整備作業

## ⑤里山を整備し障害者の自立を支援する ―みやま市景観まもり隊(福岡県みやま市)―

### 1)団体概要

NPO法人きよみず作業所では、在宅障害者の自立支援の一環として、原木シイタケ栽培に取り組んでいる。クヌギの原木を調達するために同法人理事が民有林を提供。その整備、活用のため、同NPOと福岡県造園業協会、地域住民が連携し、活動組織を立ち上げた。

### 2)活動内容

クヌギ林は尾根付近にあり、里山の裾野には放置竹林が広がっている。そのため竹林整備と作業道の整備を行う計画だ。初回の活動には、きよみず作業所の理事や保護者、造園業協会関係者の他、消防団をはじめとする地域住民が協力し、総勢 62 名が参加。同作業所の障害者が栽培するシイタケは、道の駅などで販売している。



### 3)交付金活用のポイント

同地域は農家が多く、林業は盛んではないため、活動にあたり森林組合の支援を得ることは難しい。そのため造園業者が里山整備活動を支援している。また同活動は、里山を整備し、里山の自然の景観をまもるとともに、障害者の自立支援にもつながり、住民も率先し協力している。



シイタケ原木栽培の様子



放置竹林の状況



## ⑦ふるさとの景観は市民が守る ―九十九島の松をまもる会（秋田県にかほ市）―

### 1) 団体概要

「象潟」は、鳥海山の火山活動により海にせり出した地形で、現在は、広々とした水田地帯が広がっている。そこに浮かぶ 103 の島々は国の天然記念物であり、鳥海国定公園にも指定されている。島々には松が生い茂るが、近年、松枯れの被害が深刻化している。そこで平成 11 年、住民を中心に「九十九島の松をまもる会」を結成し、松枯れ対策や景観整備に取り組んできた。



### 2) 活動内容

当初、松くい虫の防駆除活動を行ってきたが、被害は食い止められず、今日までに 800 本以上の松を伐倒した。幸いここ数年、松枯れ被害は終息しつつあるので、新たな松苗を植樹する活動に転換。植樹した松苗は、日陰に弱いため、下草刈りを徹底して行っている。

### 3) 交付金活用のポイント

「象潟」の景観保全には、多くの市民ボランティアも参画しているが、島は足場が悪く、急斜面も多いため、下草刈り作業には、刈払い機の使用に熟達したメンバーが不可欠である。今後は、同交付金を活用し、安全管理講習を実施。人材育成も行いたいと考えている。



象潟の景観



下草刈の様子

## (2) 森林資源利用タイプ

### ①地域住民が連携し間伐材をバイオマス活用 ―間伐材運び隊(岩手県紫波町)―

#### 1) 団体概要

紫波町では、平成 22 年からCO2の排出量削減の取り組みを行う個人・団体に対し「紫波エコbeeクーポン券」の支給を行っている。太陽光発電の導入、薪ストーブ設置等の他、間伐材の搬出作業にも同クーポンを発行。それにより「間伐材を運び隊」と呼ぶ、有志の会が生まれた。

#### 2) 活動内容

地域の里山林は広葉樹のほか、アカマツが多く、近年、松枯れ被害が広がっている。そこで同町では、林道ごとに森林所有者の合意形成を図り、交付金の申請を行った。里山整備は、森林所有者が実施。月に1回、「間伐材を運び隊」が材を搬出し、集積所まで運ぶ。集まった材は、薪やチップに加工して、町内の温泉施設のボイラー等で活用している。

#### 3) 交付金活用のポイント

松枯れ木の除去など高度な技術を要する作業は、岩手中央森林組合や民間事業者の一部委託することにより、森林所有者の作業負担を軽減。また、町と農林公社を中心に、地域住民の合意形成を図るとともに、交付金に係る事務手続きの支援を行っている。



間伐材の集積状況



アカマツ



## ②クロモジの安定供給を目指して ―樵舎(たきぎのかい)(富山県南砺市)―

### 1) 団体概要

樵舎は、旧利賀村にIターンして林業に就いた若者を中心に結成された任意団体である。「森に寄り添った持続可能な暮らしを提案する」ことをテーマに、多様な森林資源の活用を住民とともに模索してきた。近年、養命酒製造株式会社と縁があり、クロモジを試験的に出荷する機会を得る。

### 2) 活動内容

養命酒は医薬品であるため、原料の品質検査が厳しい。採取にあたっては、土壌及びサンプル調査を実施の上、出荷するという手順を踏む。出荷時期は5月と11月の年2回。競合樹種であるリョウブやユキツバキ、ササ等は刈り取り、整備を行っている。今後は、収穫後のクロモジの再生状況等のモニタリング調査を行い、適切な施業方法を確立したいと考えている。

### 3) 交付金活用のポイント

調査活動については「森林空間利用タイプ」で申請を行っている。クロモジの資源量や収穫後の回復状況等について調査することにより、安定した収穫量の確保と持続可能な利用を目指す。将来は、キハダ、ハウノキなど、薬効のある植物の採取についても検討中。



クロモジの収穫状況



クロモジの搬出

### ③里山資源を活用し地域の生業を創出 ―能登島自然の里ながさき(石川県七尾市)―

#### 1) 団体概要

平成 21 年の生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP 10)を契機に、石川県は先駆的里山保全地区を選定した。そのひとつが能登島の長崎地区である。同地区では町内会、婦人会等で任意団体「能登島自然の里ながさき」を設立。里山の保全活動に取り組んでいる。



#### 2) 活動内容

整備する里山林は、松枯れの被害により、林床にメダケやヤダケが侵入し、場所によってはウラジロが繁茂している。そこで里山整備と平行して、ウラジロの採取に取り組むこととした。本年度は 10 月下旬から約 1 ヶ月半採取し、約 4 万枚を正月飾りとして出荷している。また、整備にあたっては希少種や絶滅危惧種に配慮し、生物多様性保全に努めている。

#### 3) 交付金活用のポイント

ウラジロの他、ユズリハ、ヒサカキ、ナンテンなど、里山の資源を活用し、高齢化が進む同地区に新たな生業を創出することが目標である。また、伐採したメダケ、ヤダケも有効活用し、サギチョウチョウと呼ぶ子どもたち小正月行事も復活させた。



ウラジロの採取



群生するウラジロ



### 3) 森林空間利用タイプ

#### ① 学校林を子どもたちの教育に活かす ―札幌市立駒岡小学校 緑の少年団(北海道札幌市)―

##### 1) 団体概要

札幌市立駒岡小学校は、市内に4校ある小規模特認校のひとつ。「恵まれた自然環境と少人数での特色ある教育」に賛同する保護者・児童が、札幌市全域から通う。同校の校舎裏には、約1ヘクタールの学校林があり、NPO等と協働しながら森林環境教育に取り組んでいる。



##### 2) 活動内容

駒岡小学校では、国語、算数、理科、図工、家庭科など、あらゆる教科で、学校林を活かした教育を行っている。その他、野鳥観察や巣箱かけ、ツリークライミング、樹木博士認定、植樹活動など、NPOや保護者、専門家のサポートを得ながら実施している体験活動も多く、子どもたちは四季を通して学校林に親しんでいる。

##### 3) 交付金活用のポイント

森林環境教育を行うためには、教員だけでは人手やノウハウ、資金が不足している。児童の安全管理も含め、外部支援者の協力を得ることは不可欠であり、今回、交付金の申請を行った。次年度は学校林の整備活動(下草刈り等)についても申請を検討中である。



校舎の背後にある学校林



鳥の巣箱を設置する体験活動

